

[認知症対応型共同生活介護 用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2872700493		
法人名	社会福祉法人 多可町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームやすらぎの郷		
所在地	(〒 679-1327) 兵庫県多可郡多可町加美区市原40-1		
	電話	0795-30-8153	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年5月29日	評価確定日	平成21年6月29日

【情報提供票より】 [平成21年5月8日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計7人)		
職員数	8人	(常勤6人) (非常勤2人)	/ 常勤換算6.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上1階建て建物の1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金の有・無	有り (200,000円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (450,000円) 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または、1日あたり		1,200円	

(4) 利用者の概要 (平成21年5月29日 現在)

利用者人数	計5名 … (男性1名) (女性4名)		
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	1名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均88歳 … (最低81歳) (最高94歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中町赤十字病院 西脇市立西脇病院 加西市立加西病院 大山病院 町立松井庄診療所 町立杉原谷診療所 藤田歯科医院 市位歯科医院
---------	---

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

「多可町福祉ゾーン」の一角にある平屋建のホーム。山々を臨み、緑も豊かで、利用者にとって心やすまる環境が整っている。同ゾーンには、総合福祉センター、小規模作業所、診療所、小学校、幼稚園、保育所が建ち並ぶ。芝生の庭が整備され、建物周りはウッドデッキの回廊になっている。リビングをはじめ共有スペースは広く、また、居室内にはミニキッチンとトイレも備え付けられ、利用者各々の生活ペースを大切にしている。利用者の入れ替わりは少ない。数年前まで皆でしていたレクリエーションや家事の協働については、最近では認知症の進行により難しくなってきたものの、職員全員が利用者の個性をしっかり把握したうえでそれぞれに工夫しており、その人らしい暮らしの支援を強く心がけている。◎参考までに、前回・前々回の評価時の資料写真も添付

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価時の課題であった①運営推進会議の開催、②家族等への日常生活の報告の改善、③計画的な研修の実施、④地域密着型サービス事業所間での交流、⑤避難訓練の早期実施と計画の立案、⑥一日の摂取カロリーの数値把握 …について、改善に向け引き続き取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員へ聴き取りを行ない、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は開催がされていない。関係各位に呼びかけ、会議の定期開催に向けて協力をお願いする予定。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族の来訪は比較的多い(どの家族も少なくとも月に1回以上はホームを訪れている)。来訪時には、日常生活の様子を報告し、また、その際には、家族からの意見や要望も傾聴している。家族の意見については、職員会議で話し合いをし、運営に反映させている。家族が集まる機会(交流会)を年に2回設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ホームのある福祉ゾーン内には、デイサービスセンター・小規模作業所・診療所・保育所などが並び、利用者はそれらの施設へ日々行き来して地域の方々と触れ合っている。地元の商店の方も利用者をよく知っており、インフォーマルサポートも得られる環境にある。中学生のトライやるウィークや小学生の施設見学も受け入れており、学校の運動会の見学にも出向いている。



◎日々のその人らしい暮らし
「播州弁かるた」を皆で楽しみ…



◎安心と安全を支える支援
玄関にAEDを設置



◎居心地のよい共用空間づくり
皆と集う炬燵、1人でゆっくりできるテーブル



◎地域とのつきあい
地元小学校の子供たちによる手作りカレンダー



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援
「杉原紙」を使用した利用者作品(福祉展に出展)



▼ホーム外観



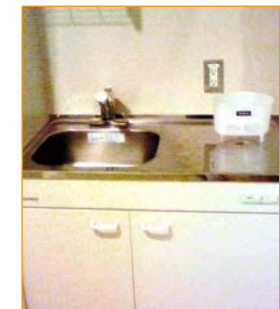
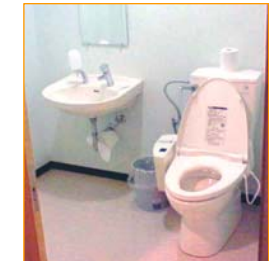
▲ホーム内は広々として視角が広い ㊸キッチン、㊹事務室周り



▼ホーム前の散歩道



▲福祉ゾーン内の施設
(上＝デイサービスセンター、下＝幼稚園)



▲居室
(各部屋に、トイレとミニキッチンを備えている)

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境」「自立した生活」「地域とのふれあい」「笑顔で自分らしく」を理念に掲げ、職員や家族に明示し、説明している。具体的な目標を分かりやすい言葉に置き換えて表現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	福祉ゾーン内の施設も活用しながら、理念の実践に向け取り組んでいる。事業主体(社会福祉法人・多可町社会福祉協議会)が発行する広報誌「ふくしねっと多可」には、ホームの活動報告を掲載している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉祭りや地域の文化祭などの行事に参加し近隣住民と接する機会を持っている。学生ボランティアや小学校の福祉学習(高齢者と児童の交流)への協力、中学生のトライやるウィーク等の受入れも積極的に行い、幅広い年齢層の方々との交流に努めている。ホーム内の共用部には、地域子ども会の子どもの手作りカレンダーが掛けられていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び第三者評価結果は全職員で回覧し、課題を共有している。評価内容をサービス向上のために活かしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」は、未だ開催できていない。	○	運営推進会議の開催(概ね2か月に1度)に向け、尽力願いたい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや健康福祉課との連絡体制ができています。町立診療所の医師も定期的に往診に来ています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時には管理者や担当職員が利用者家族と面談し、ホームでの暮らしぶりを報告している。家族会は結成されていないが、年に2回程度、家族を交えた交流会を開催している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時や家族交流会で意見を聴き、申し送り時やミーティングなどには職員と話し合う機会を設け、迅速な対応を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は非常に少ないが、異動時には引継ぎ期間を設け利用者へのダメージに繋がらないようにしている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の機会を設け、スキルに応じ参加しているが、年間研修計画が立案されていない。現在、外部研修への参加及び施設内研修も含めて検討中である。	○	各職員による持ち回り研修や伝達研修も含めて、年間研修計画の立案願いたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の事業所と連携を図り、参考事例を取り入れるなど、情報交換を行なっているが、町内にあるグループホームによる連絡会を組織するには至っていない。	○	町内の地域密着型サービス事業者間だけでなく、近隣市町村も含めた連絡会の設置や加入を検討されてはどうか。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談後には、ホームを見学に来て頂いたり、また、管理者が自宅訪問を行ない、利用者や家族の意志や要望を聴きとり不安点を解消するようにしている。職員は全員が町内在住者のため、顔馴染みの関係は作りやすい環境にある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気の中で何でも話せるような関係づくりを心がけている。簡単な家事などを協働している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との会話の中から本人の意向を把握するように心がけている。日々の記録内容も会話によるものを中心にして、職員はそれぞれの利用者の個性を把握している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の調査票情報、本人の要望、家族の意見等を参考にし、実態に合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	KOMIチャート方式を参考に、日常会話を中心とした生活記録を記録し、実態を把握したうえで個別ケアプランシートにまとめている。3か月に1度、モニタリングを行ない、計画を見直している。「一日の流れシート」には、利用者別に配慮すべき点が記入されており、計画作成の際にも参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームのある福祉ゾーン内の各施設や職員との連携がとれている。併設するデイサービスや小規模作業所のイベントにも随時参加している。医師の往診、訪問理美容、地域住民からの介護に関する相談なども随時受け付けている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行によるかかりつけ医の受診が行われており、状況によっては協力医の往診や職員の同行により受診に出向くこともある。協力医は、1か月に2度ホームを訪れており、利用者とコミュニケーションの時間をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合やターミナルケアに向けての本人や家族の意向は聴いている。状況が見られた場合は、家族や主治医と協議し、次のケア方針を検討している。現在、ターミナルケアの指針は未作成である。	○	ターミナルケアについての事業所の方針を作成しておくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねないような対応を行なっている。特に声かけや言葉使いには重点を置いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の見守りの中、リビングを中心に利用者は好みの場所で自由に過ごしている。タオルをたたむ人、本や新聞を読む人、窓際のソファでくつろぐ人、歌を唄う人など、その方らしい暮らしがうかがえた。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルで会話を楽しみながら一緒に食事をしている。メニューは利用者の意向を聞いたうえで、季節感も取り入れ工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができる。職員と利用者が1対1で会話を楽しみながらゆっくりと入浴している。入浴を拒否する利用者には時間をおいて再度声かけをしたり、後日に入浴するなどの対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴に応じた役割を持ってもらい、日々の生活に「張り」を持たせるように支援している。お花見、ホタル狩、イチゴ狩、誕生会などの季節行事を中心としたレクリエーションがほぼ毎月開かれており、また、展示会に作品を出品したり見学に行くなど、イベントにも積極的に参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、ドライブ、買物などに出かけ、気分転換も含め、施設外の方との交流、季節感の把握等の支援をしている。近隣商店や近隣施設の従業員などは顔見知りになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各職員は利用者の居場所や状況を常に把握している。居室は常に開放され、日中は玄関も開放されている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡体制網が整備されているが、定期的な避難訓練は行なわれていない。玄関にはAEDが設置されている。	○	地元の消防団に協力を仰ぎ、避難訓練計画を立案してほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの食事摂取量は把握され、健康記録表に記録されているが、カロリー摂取量の数値把握はされていない。水分摂取量は1500cc以上摂取するよう、大まかに数値把握されている。	○	栄養バランスを把握するため、カロリー摂取量はおおまかに数値で把握しておくことが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの机やカウンターには、季節の花が生けられており、行事の飾り物、利用者の作品なども置かれている。玄関先には椅子を置き、靴の脱着時の安全確保とともに、日光浴をしたり、外の景色を見ながら会話を楽しむこともできる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、居室には本人が使っていたベッドやタンスなど、使い慣れた家具や調度品を持ちこみ、できるだけ自宅で過していた環境に近くなるよう、個性に合わせた居室作りを支援している。各居室にはオゾン脱臭機が設置されている。		

※  は、重点項目。